

公立大学法人秋田県立大学教員募集要項

1. 職名及び人員 准教授または助教 2名 (※ 8月7日付けで募集人員を“1名”から“2名”に変更しました。)
2. 所属 総合科学教育研究センター
3. 専門分野 英語教育学、英米文学、英語学、その他関連分野のいずれかの分野
4. 担当授業科目 CALL、異文化コミュニケーション、科学英語、教養英語、グローバルシチズンシップ等の英語関連科目を担当
5. 応募資格 (1) 修士以上の学位を有し研究上の業績を有すること
(2) 当該分野の教育と研究に熱意を持っていること、地域貢献にも意欲を持っていること
(3) 国籍は問わないが、ネイティブスピーカーに準ずる英語力があること。ネイティブスピーカーの場合は日常業務を日本語で行えること
(4) コンピュータを利用した英語教育 (CALL等) の経験、あるいはそれに対する関心があること
(5) 3年以上の英語教育実績を有することが望ましい。
(6) 採用が決定した場合、確実に着任できること
6. 採用予定日 令和2年4月1日
7. 勤務条件等 (1) 身分 公立大学法人職員
(2) 給与 職位・業績・職務内容に応じた年俸制
(3) 勤務 裁量労働制
(4) 任期 5年の任期制 (再任回数に制限はありません。)
※博士の学位を有しない者は、3年以内の任期制 (再任回数に制限なし) となります。
(5) 定年 67歳
8. 応募書類 (1) 履歴書 (本学所定の様式1による。*)
(2) 研究業績書 (本学所定の様式2による。*) 学術論文は、①学術論文 (査読付き)、②国際会議発表論文 (査読付き)、③その他に分類して記載してください。また、准教授は主要なもの5編、助教は3編に○を付けて下さい。
(3) 主要論文 (著書を含む) 准教授は5編 (コピー可)、助教は3編 (コピー可)
(4) これまでの研究、教育及び社会活動 (地域貢献を含む。) の概要 (1000字程度)
(5) 教育に対する抱負 (1000字程度)
(6) 研究・地域貢献に対する抱負 (1000字程度)
(7) 応募者について意見を求めることができる推薦者2名の氏名と連絡先
(8) 科研費等外部資金獲得の実績がある場合は、過去5年間における獲得状況の一覧
注) *印: 履歴書 (様式1) 及び研究業績書 (様式2) については、ホームページ (<https://www.akita-pu.ac.jp/about/saiyo/>) をご参照ください。
9. 応募締め切り 令和元年10月4日 (金) 必着
10. 選考方法 (1) 第一次選考 提出書類審査、当センター選考委員会による面接 (10月24日を予定)
(2) 第二次選考 プレゼンテーション、役員による面接 (11月中旬を予定)
※ 面接の旅費等は自己負担となります。
11. 応募書類の提出先及び問い合わせ先
〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4
秋田県立大学総合科学教育研究センター 教員選考委員長 岡崎弘信
TEL: 0184-27-2035 (ダイヤル) E-mail: okazaki@akita-pu.ac.jp
※ 封筒の表に「総合科学教育研究センター教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付してください。応募書類は返却しません。
12. その他 本学は、女性の職業活動における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援、環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

(女性活躍推進行動計画: <https://www.akita-pu.ac.jp/up/files/www/about/houjin/keikaku/joseikatsuyaku.pdf>)

(子育て支援等行動計画: <https://www.akita-pu.ac.jp/up/files/www/about/houjin/keikaku/kosodate.pdf>)

今回の公募で求める人材像
(総合科学教育研究センター)

1. 教育について

知の土台を形成し、人間性を陶冶する「教養教育」の重要性は、急激に変化する社会状況において一段と高まっている。そうした現実を鑑み、本センターでは、グローバルな視点と地域の持続的発展に寄与するローカルな視点とを併せ持ち、科学技術の進展等の諸変化にも自律的に対応し得る「統合された知」の基盤を涵養することを基本理念としている。それを実現するために、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法等の知的技術（スキル）、人間としての在り方や生き方に対する深い洞察力、そして現実を柔軟且つ的確に認識・理解する力を身に付けさせることを、目標として設定している。

このような教育目標を達成するために、本学の英語教育では入学直後から CALL でリスニングに慣れ、その後、学生それぞれのニーズに応じて、話す・読む・書くための科目や TOEIC・英検の受験に対応する科目を開講している。また、新入生を対象に客観的英語力測定のために TOEIC Bridge 試験を、2年生以上を対象に TOEIC IP 試験を実施している。さらに、英語の学習意欲を高め、国際交流を促進するため海外夏期語学研修等に積極的に関わりながらグローバルに活躍できる人材の育成も図っている。本センターには日本人とネイティブスピーカーの英語教員が配置されているが、今回は国籍を問わず、優れた英語能力をお持ちの方で日常業務や事務手続等を日本語でできる方を求めるものである（秋田キャンパスまたは本荘キャンパスに配属予定）。

（※ 8月7日付けで配属予定キャンパスを“秋田キャンパス”から“秋田キャンパスまたは本荘キャンパス”に変更しました。）

2. 地域貢献について

本学は県立大学という特性上、行政機関とのつながりが強く、本センターも所属教員の多くが地域貢献活動として各種講演会・講習会の講師、また審議会委員などを積極的に務めている。本公募による新任教員にも、英語教育等の分野での地域貢献が求められる。

3. 研究について

本センターでは、これまで「教育を重視する研究大学」という本学の運営方針のもと、各教員がそれぞれの分野で大きな成果を上げてきた。今回の公募でも、積極的に外部資金に応募し、自身の研究を発展させて行ける人材を求めるものである。

総合科学教育研究センターの構成

令和元年7月現在

本センターは、専門分野を異にする研究者の集合体という性格を持っており、「人間科学研究グループ」と「英語研究グループ」の二つのグループで構成されている。本センターの理念は、グローバルな視点と地域の持続的発展に寄与するローカルな視点とを併せ持ち、科学技術の進展等の諸変化にも自律的に対応し得る「統合された知」の基盤を涵養することである。

人間科学研究グループ9名（教授3名、准教授5名、助教1名）

- 秋田県の近代文学を対象とした、風土と文化との関係性についての研究（文学）
- 高齢者の意思決定は若い人とどこが違うのかということについての研究（心理学）
- 知識や文化（ものの見方や考え方）の働き、その人間と社会との関わりについての研究（社会学）
- セーレン・キェルケゴールの生と思想を手がかりとした、人間の生き方についての研究（哲学・倫理学）
- ヒトの姿勢制御メカニズムを明らかにして高齢者の転倒予防に貢献するための研究（体育学）
- 一般相対論や流体力学における運動方程式の数理的側面の研究（物理学）
- 「自己理解」の方法、「仕事理解」の方法についての研究（キャリア教育学）
- 学校や生徒、保護者が求める高等学校教員を養成するための研究（教員養成学）
- 資質・能力を育む学習過程を重視したカリキュラム開発に関する研究（学校教育学）

英語研究グループ7名（教授3名、准教授2名、助教2名）

- 約千年前の英語の語順（ことばの並べ方）についての研究（英語学）
- 学習内容を中心とした英語教授法についての研究（英語教育学）
- 英語リスニング、リーディングに関する e-learning 教材の開発研究（英語教育学）
- 実践的体験学習と自律学習の研究（英語教育学）
- 19世紀の日本と英国における貧困問題を、文学・文化面から比較する研究（比較文学）
- 動物の表象に関する日英比較文学研究（比較文学）
- 会話力を向上・改善させるためのコミュニケーション戦略についての研究